

**防災リーダーの役割/住民
(構成員)の自助意識を高めるには**

**自助の重要性と
災害への備え**

みんなでつくる「地区防災計画」

災害対策基本法（第42条の2）

地区居住者等は、共同して、市町村防災会議に対し、市町村地域防災計画に地区防災計画を定めることを提案することができる。この場合においては、当該提案に係る地区防災計画の素案を添えなければならない。



災害は忘れた頃に起こるともいわれています。

地区防災計画を活用して、いざというときに地域コミュニティごとに効果的な防災活動を実施できるようにすることが重要です。



<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/chikubousai/index.html>

地域住民が主体となり、防災を考える

地域提案型防災政策：地区防災政策



地域防災計画に反映済み：

23都道府県、41市区町村、248地区

地区防災計画策定に向けて活動中：

42都道府県、132市区町村、3,206地区

(内閣府・H31.2.20)

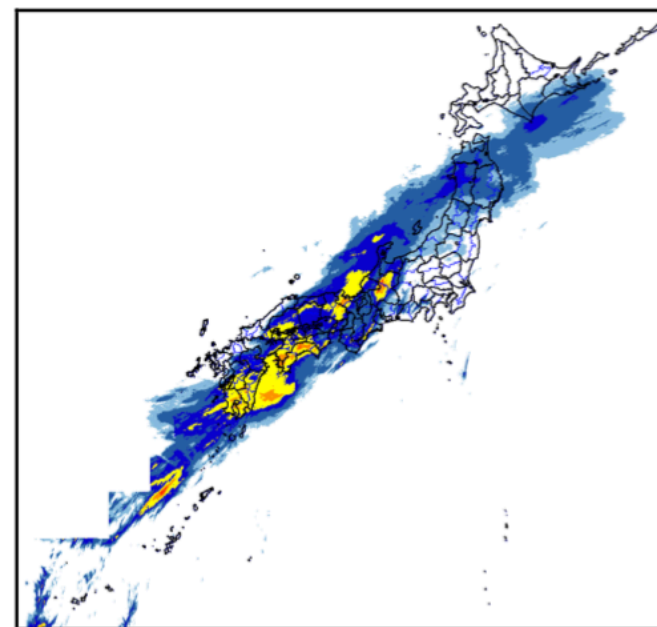
1. 命を守る

平成30年7月豪雨災害

- 台風第7号および梅雨前線の停滞により、日本全国に長期の豪雨。
- 岡山県、広島県、愛媛県、山口県、兵庫県、京都府、岐阜県、高知県で土砂災害・河川氾濫等による被害が同時に複数箇所が発生。
- 死者：224名*
- 行方不明者：8名*

(*内閣府 平成30年10月9日付)

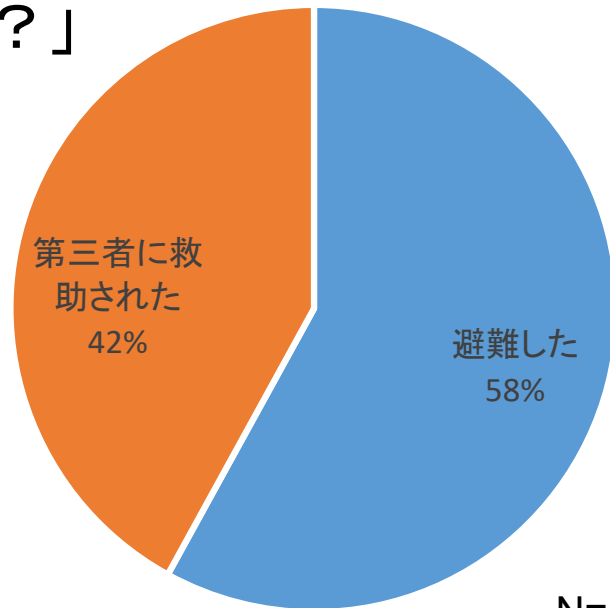
7月7日の天気図(気象庁)



平成30年7月豪雨（岡山県倉敷市）

孤立状況のなかから救助された人が 2,350 名（岡山県, 2018）

「浸水時に自ら避難しましたか。それとも自宅にいるところを救助されましたか？」



- 58%は立ち退き避難
 - 42%は救助
- 垂直避難の限界

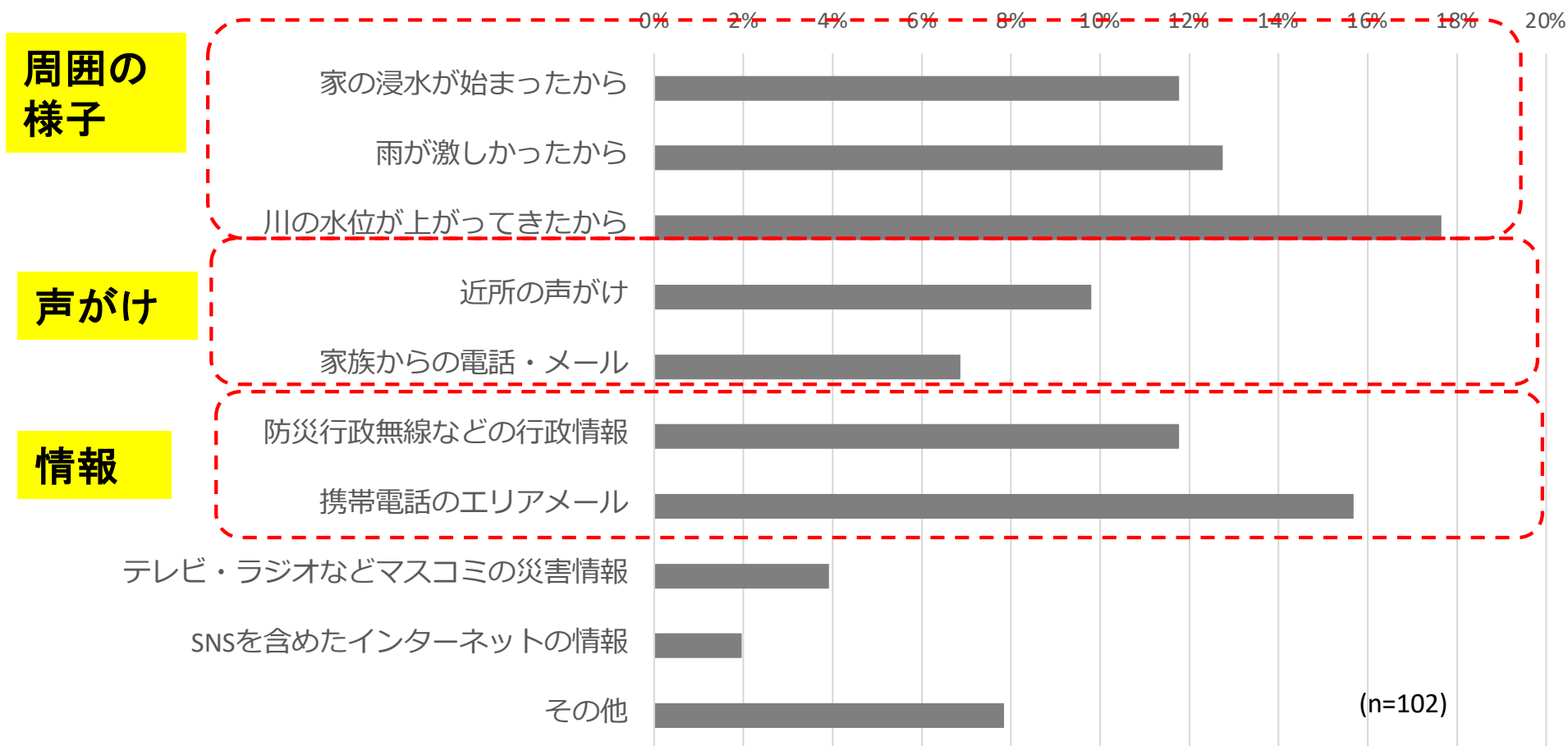


(写真) 鳴海剛氏提供

- 犠牲者51名中42名が住宅1階部分で遺体となり発見
 - 21名が平屋
 - 42名中36名が65歳以上
- (朝日新聞 2018年8月8日付)

避難した人（58名）

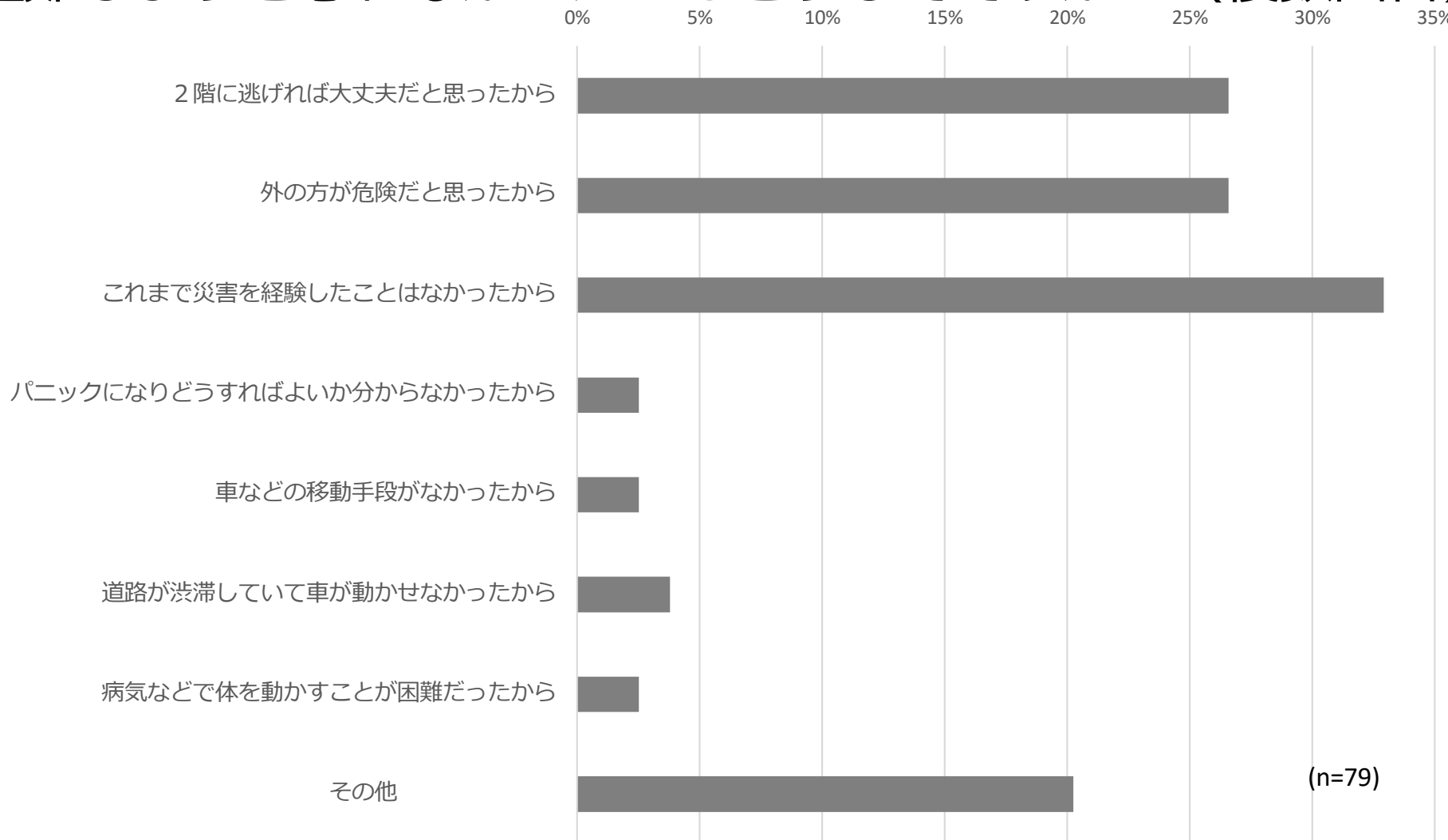
「避難行動のきっかけは何ですか？」（複数回答）



- 周囲の様子が非日常だと感じたこと(川の水位・雨・浸水)が最も多い。
- 行政情報(防災行政無線・携帯電話のエリアメール)もトリガーとして機能。

避難しなかった人（42名）

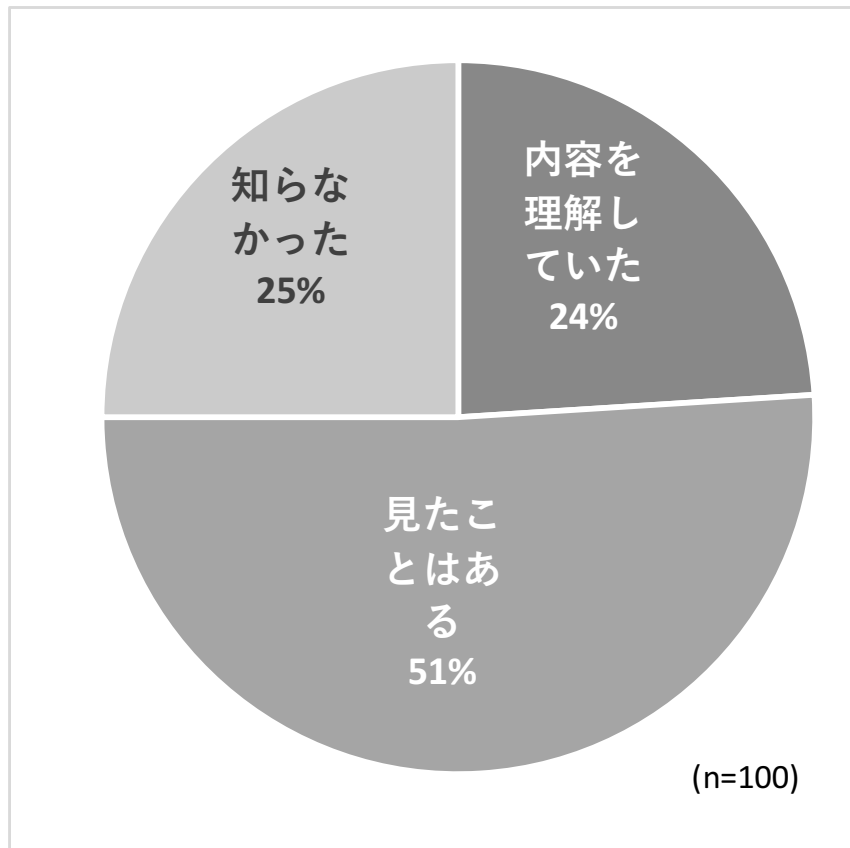
避難しようと思わなかったのはどうしてですか？（複数回答）



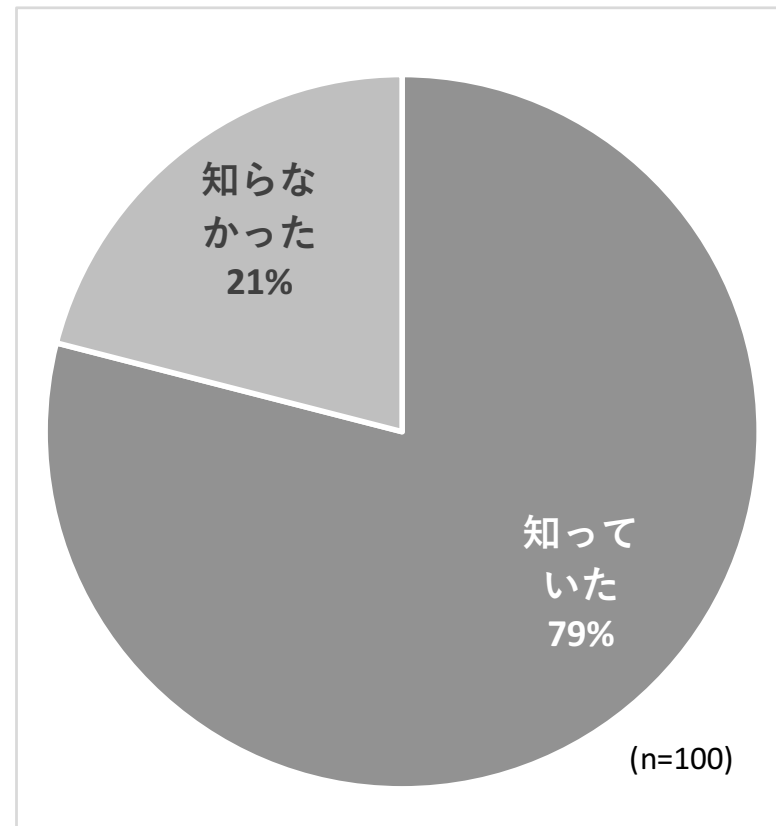
- 「2階に逃げれば大丈夫」「外の方が危険」<リスクの過小評価
- 過去の被災経験が、避難行動にネガティブな影響を及ぼしている。

ハザードマップ・避難所の情報

地域のハザードマップを知っていましたか？



水害発生時に自分が行くべき避難場所を知っていましたか



- 10・20代は「知らなかった」が多い
- 40代より上は「見たことはある」が最多

- 10・20代は全員「知っていた」
- 40代より上は「知らない」人も



**溺死群靈之墓
(明治13年6月10日)**

**小田川の氾濫
(床上浸水1000棟以上)**

1894年10月14日

1934年9月21日(室戸台風)

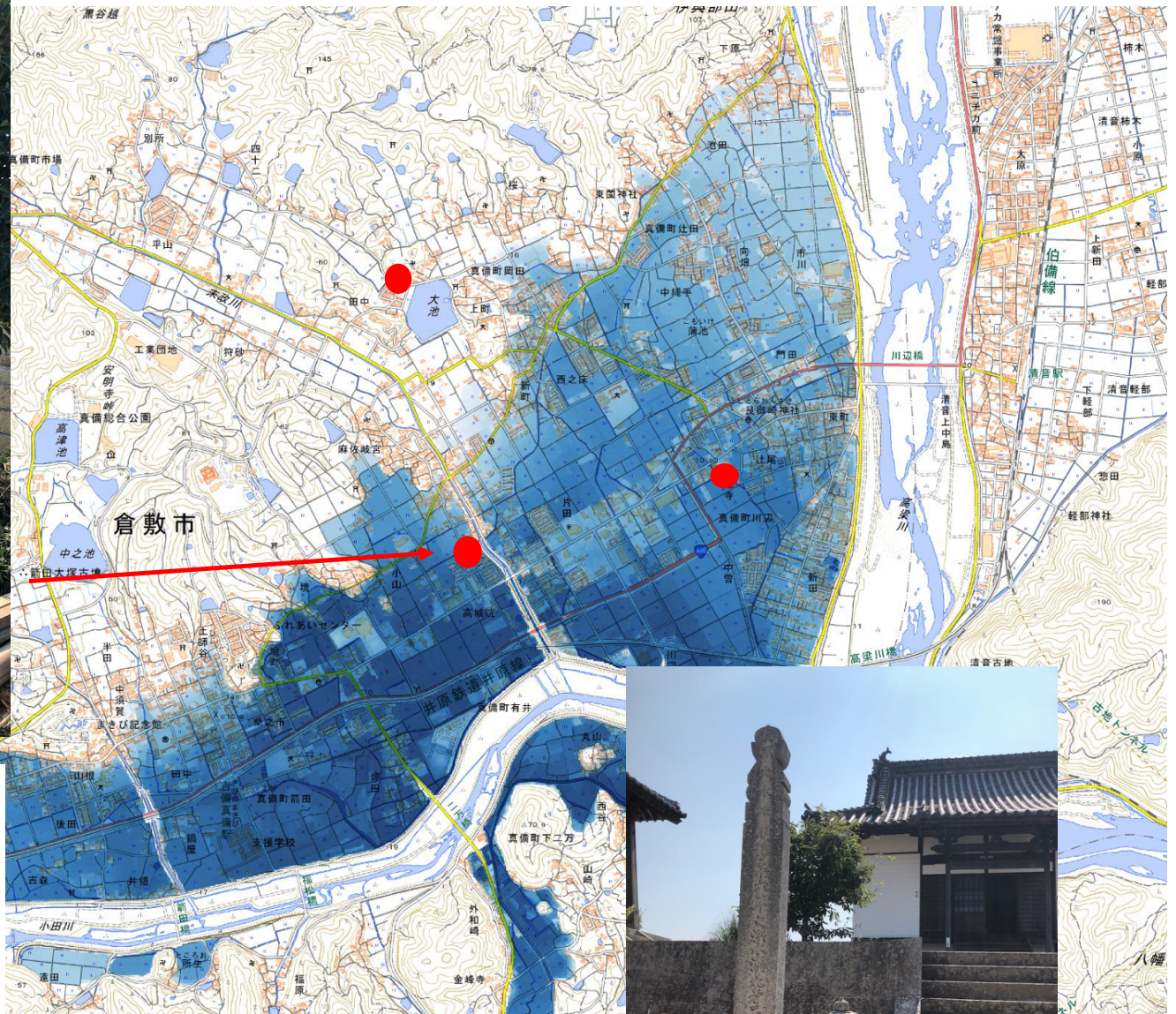
1945年9月18日(枕崎台風)

1953年9月23日

1970年8月20日

1972年7月9日

1976年9月14日

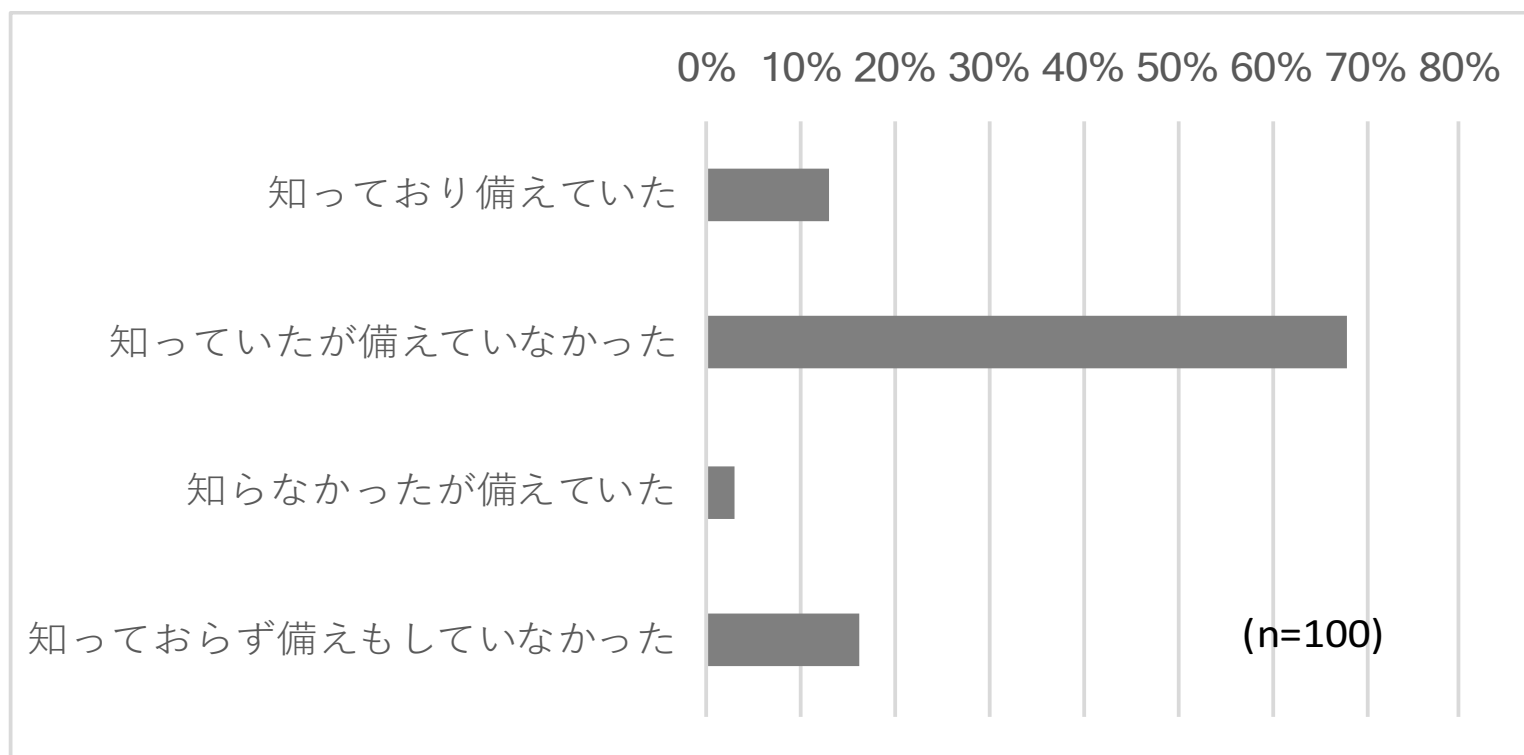


**源福寺
明治二十六年大洪水溺死
二百余霊追福之塔
(明治26年9月3日)**



過去の災害について

真備町地区では過去に水害がたびたび起きていましたが、そのことを知っていましたか。また水害への備えをしていましたか



- 「知っていた」は81% 40代以上に多い。
- 「備えていなかった」が84%
- 「知っており備えていた」は60代以上。ただし、そのうち30%は立ち退き避難していなかった。
- 「知っていたが備えていなかった」は40代～70代に多い

平成30年7月豪雨災害 岡田地区の人が取り組んだこと

2 あの日の岡田

検証 西日本豪雨

指定避難所の岡田小学校へ向かう道は渋滞していた。岡田小学校に登る途中の道は狭く、通りにくい箇所もあった。夜間は用水路がどこにあるのかわかりにくかった。また、冠水後は用水路と道との境界がわからなくなった。岡田小学校は、避難してきた人で一杯になり、他の避難所へ行かざるを得なかった人もいた。



平成30年7月豪雨災害 岡田地区の人が取り組んだこと

- 避難所対応支援
- 避難車両の誘導
- 高齢者への声かけ
- 高齢者の避難誘導
- 避難所物資の買い出し
- 避難者への炊き出し



ご近所力を生かした対策が大切

- 民生委員・自主防災組織だけで要支援者全員を避難させるのは困難。地域住民全員で問題を考える。
- 家族・隣近所で助けられる人は家族・隣近所がサポート。
- 自分たちだけでは避難が難しい人は地区全体でサポート。
- ネットワークづくりが大切

ご近所力が大切

小グループによる声かけ避難 (岐阜県下呂市小坂町)

- いざというときに自分が助けにいけるのは両隣、向こう3軒。
- 災害時には、近隣5世帯程度を単位とした小グループを単位に安全を確認し、助け合って避難する。
- 小グループの中で避難をするときに声をかける人を決める。
- 小グループごとに、普段から自宅近所のリスクを把握し、それを共有する。
- 自分たちの地域の近くにある安全な避難場所を確認する。

(小坂町大垣内地区)
「声かけ、気かけ、目配りグループ」

「新・地域見守り安心ネットワーク」の特徴

- 個別に支援者が定められている。
- 親しい人・近隣者が明記されている。
- 地域ネットワークでのサポート体制。

区長氏名： 阪本太郎

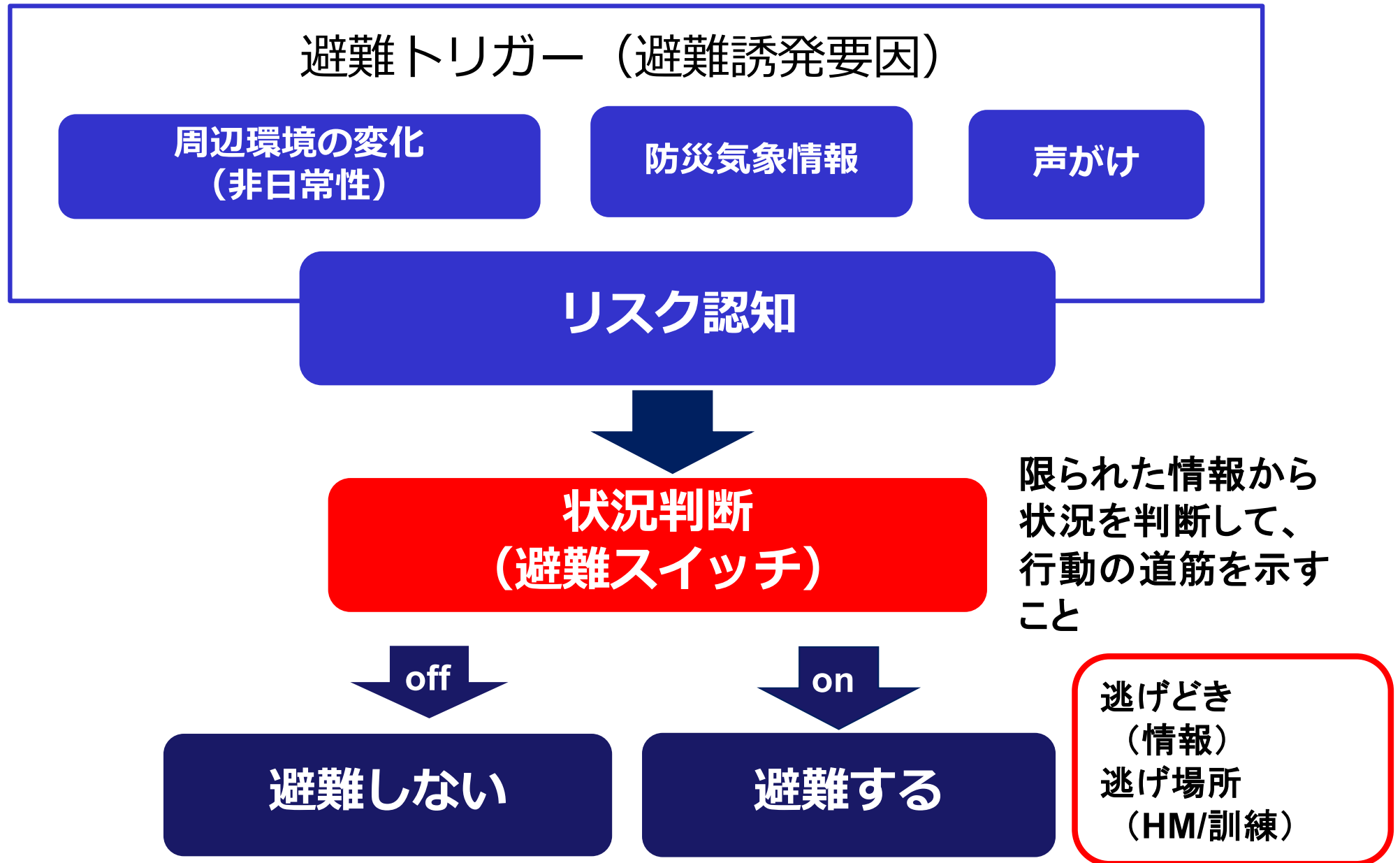
区分	隣組	氏名	年齢	性別	家族	所見	緊急連絡先	見守り訪問者・地域支援者						
								親しい方・隣近所		民生委員	組長	ネットワーク構成員		
ひとりぐらし		田中太郎	95	男	市内に娘	娘が週2回訪問	666-7777	上下さん	松本さん	山下さん	北さん	西さん	雨さん	中さん
		山田花子	82	女	東京に長男	膝が悪い	888-9999	右左さん	谷岡さん	川上さん	北さん	南さん	雪さん	東さん
重度障害		佐藤次郎	55	男										
		沖田町子	21	女										
その他														

親しい人・隣近所でサポート

隣近所の支援が難しいときは、ネットワークがサポート

2. 「逃げどき」と「逃げ場所」を知る

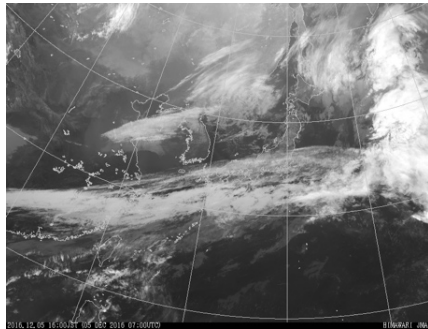
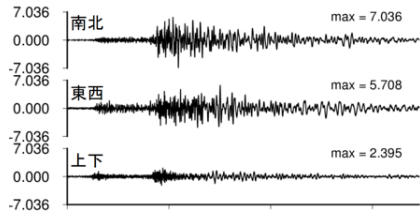
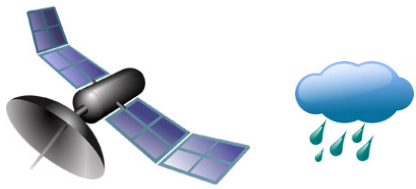
避難：避難スイッチを入れる



逃げどき：情報を知る

防災気象情報と所管省庁

観測情報



- ・ 気象庁
- ・ 国土交通省
- ・ 防災科学技術研究所
- ・ 大学など

気象庁

予警報

地震・地象・津波・高潮
波浪・洪水

気象業務法第13条

国土交通省

洪水予報等

洪水の恐れがある場合は
水位・流量を周知

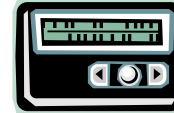
水防法第10条2

市町村

避難のための立退の
指示

災害対策基本法第60条

マスメディア

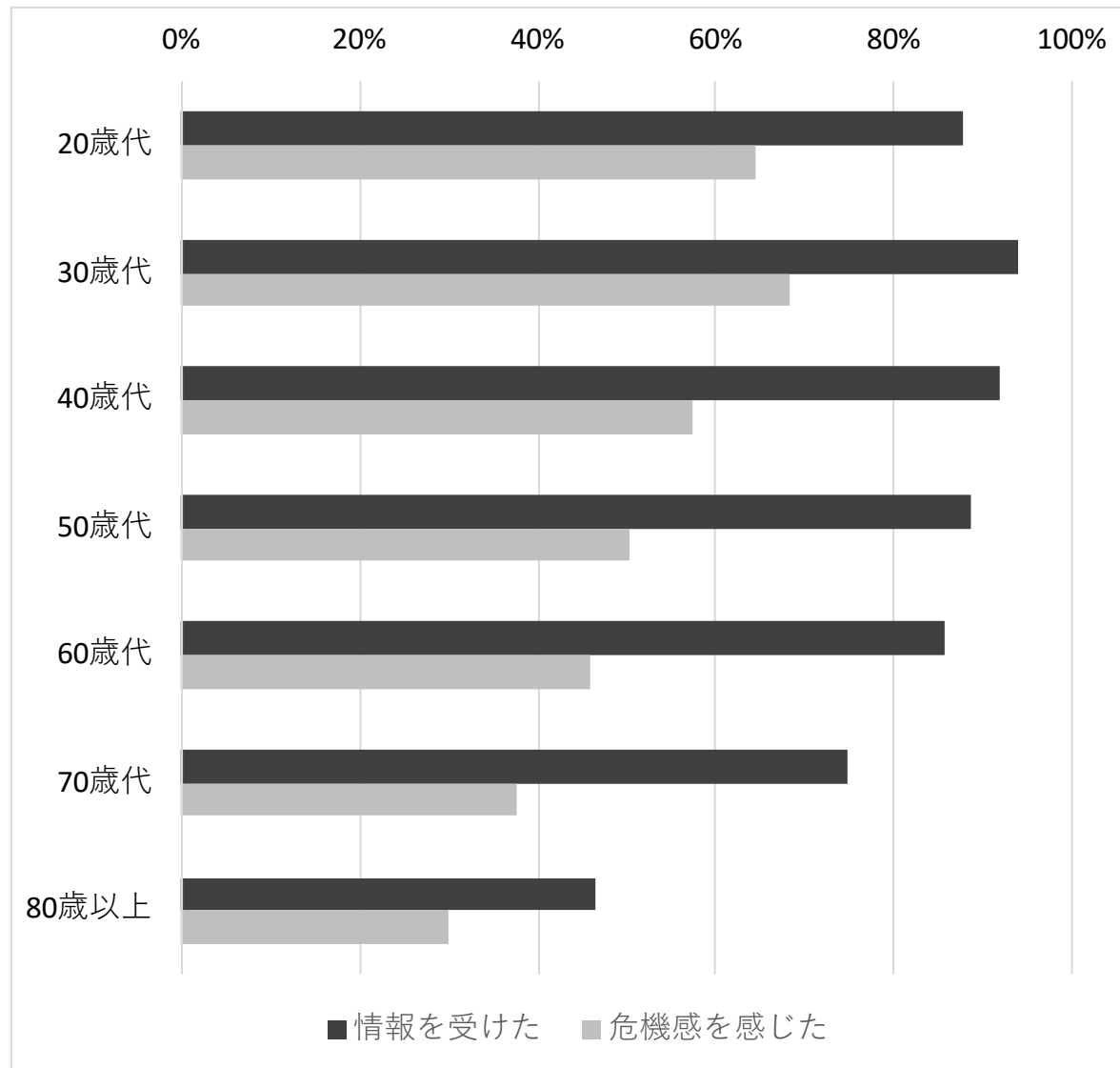


防災行政無線
エリアメール

「避難勧告」に対して危機感を感じたか？

R1東日本台風

長野県須坂市における避難行動調査(n=7,158)



令和3年5月20日から

警戒レベル
4

避難指示で必ず避難

避難勧告は廃止です

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	 災害発生 又は切迫 緊急安全確保 ※1	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~		
4	 災害の おそれ高い <b>避難指示</b> ※2	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	 災害の おそれあり <b>高齢者等避難</b> ※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	 早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

- ※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
- ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることとなります。
- ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1
~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~			
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示(注)
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

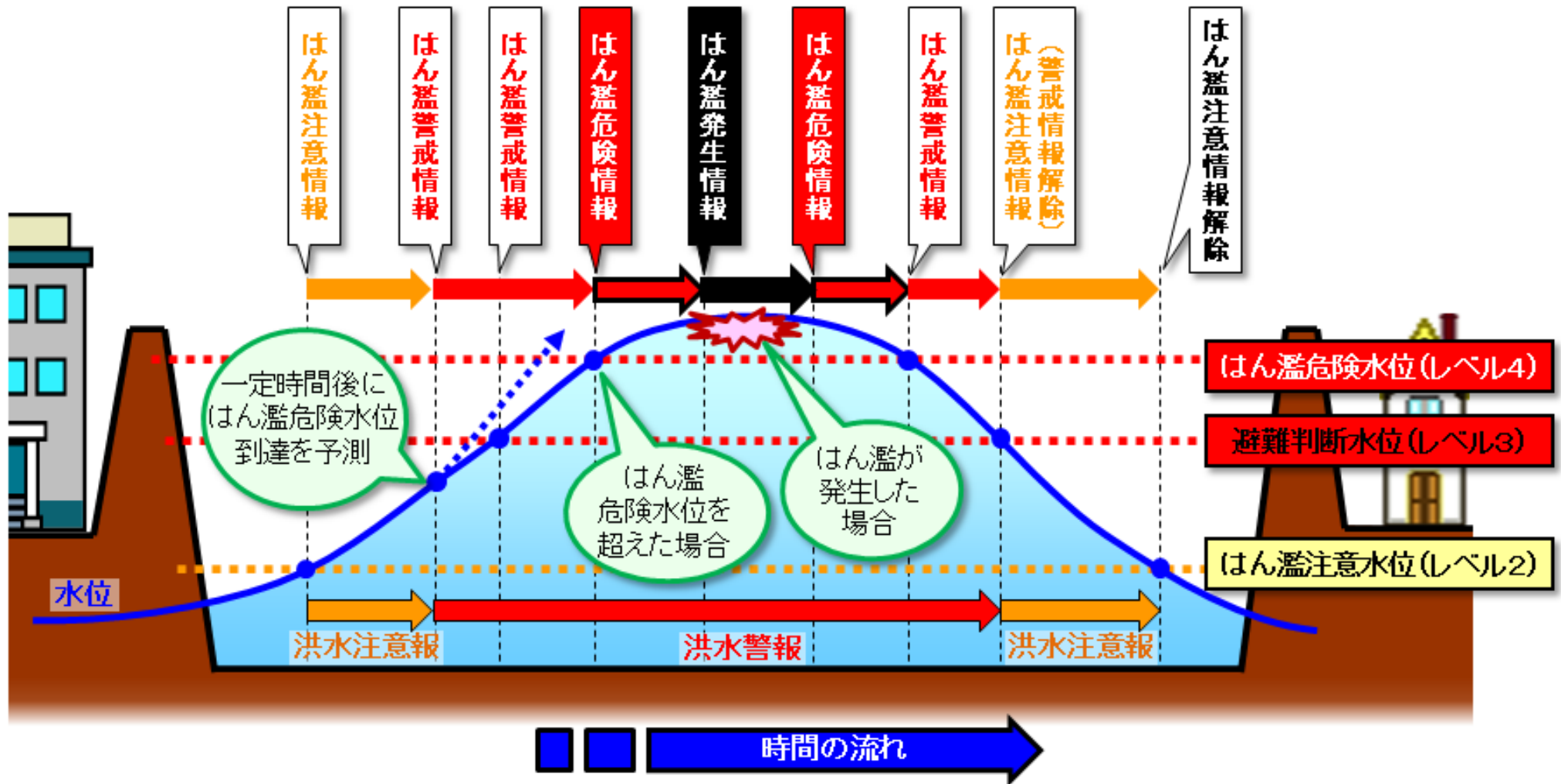
- ※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない
- ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである(注) 避難指示は、令和3年の対法改正以前の避難勧告のタイミングで発令する

警戒レベル5は、
すでに安全な避難ができず
命が危険な状況です。
**警戒レベル5緊急安全確保の
発令を待ってはけません!**

避難勧告は廃止されます。
これからは、
**警戒レベル4避難指示で
危険な場所から全員避難
しましょう。**

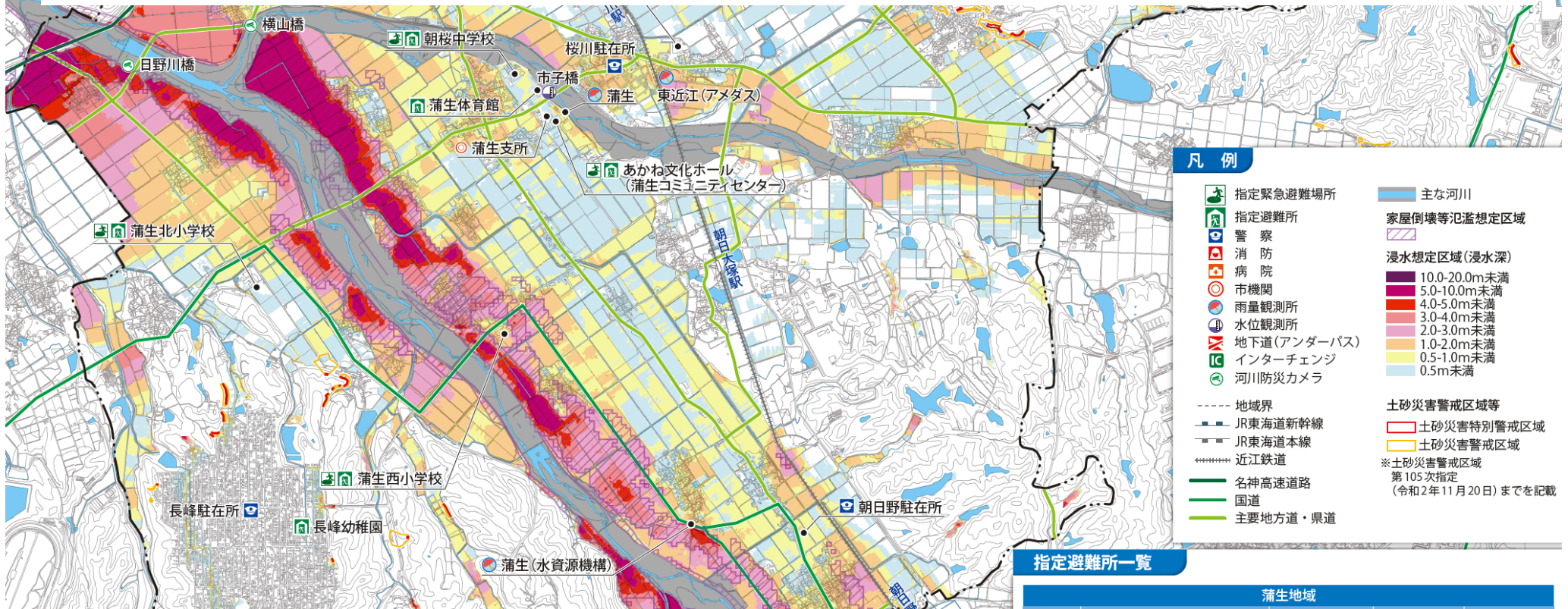
避難に時間のかかる
高齢者や障害のある人は、
**警戒レベル3高齢者等避難で
危険な場所から避難
しましょう。**

指定河川洪水予測（気象庁+国土交通省/県）



逃げ場所：ハザードマップをよく知る

ハザードマップは、特定の条件においてどこが危ないのかを示している。

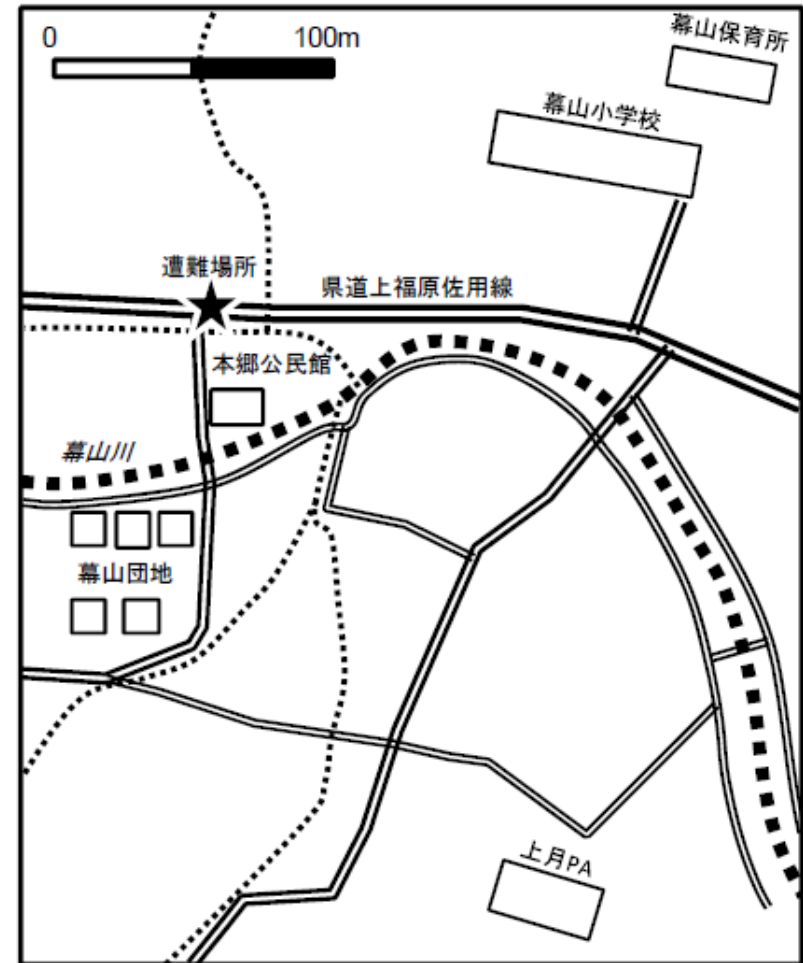


- ハザードマップは読み解かないとわかりにくい
- ハザードマップでは、どこが安全なのか、どのように避難するのかは示されていない。

水路に気をつける

2009年台風9号（佐用町）

- 死者20名、行方不明者2名。
- 避難先に向かっていた人が12名死亡。
- 同一地点で遭難。用水路から水があふれたところを横断して小学校に避難しようとした。



出所 牛山素行 2009年8月9日兵庫県佐用町を中心とした豪雨災害の特徴 自然災害科学 第34号 2010年

夜間・浸水が始まってからの避難は危険

自分たちのスイッチを入れる タイミングを考える



(京都府福知山市)

地域の水路から水はあふれる

- 地域の水がたまりやすい場所を知っておく。
- 水路に気をつける。
- アンダーパスに気をつける。
- どこまで水が来たら避難するのかを考えておく。

- 内水氾濫については、ローカルな避難判断基準が重要。
- 地域内で浸水しやすい場所を知っておく。

マイ・タイムラインとは

洪水のような進行型災害が発生した際に、「いつ」、「何をやるのか」を整理した個人の防災計画です。

河川の水位が上昇した場合などに、**住民一人ひとりがとる防災行動を時系列に整理し、あらかじめ取りまとめておく**

ことで、急な判断が迫られる災害時に、自分自身の行動のチェックリスト、また判断のサポートツールとして役立てることが出来ます。



3.地区防災計画を考える

災害対応：個人がすること/地域がすること

災害発生前

災害発生後

自分がすること

(個人)

- ・自宅・周辺の安全性確認
- ・避難場所・避難所の確認
- ・家族との安否確認
- ・住宅の耐震化・家具固定
- ・非常用備蓄整備

(個人)

- ・被害状況の確認
- ・生活環境の整備
- ・被害の記録
- ・支援申請（義援金・生活再建支援金）

地域がすること

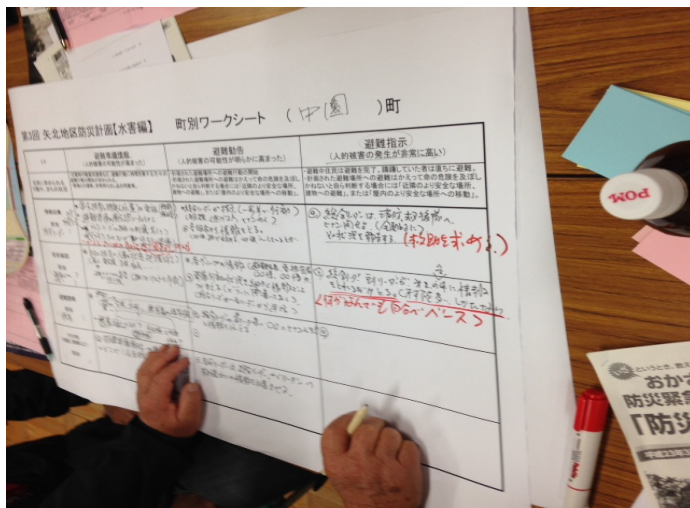
(地域)

- ・地域住民の情報把握
- ・防災訓練・啓発
- ・避難路・避難場所の確認
- ・災害用資機材の整備
- ・要配慮者支援体制
- ・避難所運営方針の検討

(地域)

- ・避難誘導
- ・安否確認・被害状況把握
- ・情報対応
- ・物資対応
- ・避難所運営
- ・在宅避難者支援

地区タイムラインを考える



	平常時の活動	災害時の活動	人数
地区(町・団地内)の 自主防災委員	例 ・地区内連絡網の整備	例 ・災害時の声かけ	2名
岡田地区全体の 自主防災委員	・水位・雨量の観測 ・災害対応体制の検討	・地区災害対策本部(市役所との連絡調整) ・災害時の避難所運営 ・避難情報の提供	2名 2名 2名

災害時避難者確認リストをつくる

防災情報配布確認票（防災パンフ・冊子・非常食等）
・災害時避難確認票

町		年 月 日 時 分			
	世帯者名	世帯 人数	配布（避難） 確認 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	避難者数 （岡田小学校）	その他（避難先・在宅避難）
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

防災訓練をやってみる

落合区民の皆様へ
落合区長

6月25日(日)は、
土砂災害防災訓練
を実施します!

訓練内容の詳細については、後日、
「回覧」にてお知らせいたします。

- 小グループを単位とした避難訓練の実施
 - 2017年 6/25 土砂災害
 - 9/6 地震
 - 2018年 5/26 土砂災害
- 避難：小グループで安全を確認して避難する。また、自宅近所のリスクを把握。
- 図上演習：地域ごとに安全な場所を確認・共有する。

災害に強い地域の特徴は何か？

地域解決型の災害対応体制ができている

- 地域ぐるみでの問題解決を目指している
- さまざまなセクターの人（商店街・企業・学校など）を巻き込んでいる。
- 顔の見える関係が構築されている
- 地域の資源をよく知っている（重機、井戸、看護師・介護士など）
- 災害時に、自分がどのように行動するのかを知っている
- 一人一人が役割を持っている
- （やりたくない人も参加している）